



神奈川県立がんセンター 薬剤科 御中
(FAX:045-520-2206)

保険薬局 → 薬剤部 → 医師・看護師

報告日: 年 月 日()

情報共有シート (がん化学療法)

担当医:
診療科:
診察券番号:
患者氏名:
生年月日(西暦): 年 月 日

保険薬局
名称:
所在地:
電話番号:
FAX番号:

*この情報を伝えることに対して患者の同意を 得た 得ていない

聞き取り日: 年 月 日() 担当薬剤師名(薬局):
対応者: 本人 家族 その他()

Grade2以上の症状(緊急性がなく次回の診療への情報提供)について記載をお願いします。

【レジメン】

経口() 注射() 経口+注射()

【情報共有内容】

用法用量 有害事象 検査値異常 アドヒアランス不良 その他()

【検査値異常の詳細】

白血球 HGB減少(貧血) 血小板 AST ALT T-Bil Scr K Ca Na Mg

情報提供

<注意>

FAXによる情報伝達は、疑義照会ではありません。

緊急性のあるものは通常通り電話にてお願いいたします。

副作用の重症度分類(神奈川県立がんセンターver.)

CTCAE ver5.0を参考に一部改変
※ベースラインが異常値の場合、別途に規定あり。

副作用項目		副作用の重症度			
		Grade1 (軽度)	Grade2 (中等度)	Grade3 (重度)	Grade4 (生命を脅かす)
白血球減少	10 ³ /μL	(男)<3.9-3.0 (女)<3.5-3.0	<3.0-2.0	<2.0-1.0	<1.0
好中球減少	10 ³ /μL	<2.0-1.5	<1.5-1.0	<1.0-0.5	<0.5
Hb減少(貧血)	g/dL	(男)<13.5-10.0 (女)<11.3-10.0	<10.0-8.0	<8.0;輸血を要する	生命を脅かす; 緊急処置を要する
血小板減少	10 ⁴ /μL	(男)<13.1-7.5 (女)<13.0-7.5	<7.5-5.0	<5.0-2.5	<2.5
AST増加※	U/L	>40-120	>120-200	>200-800	800<
ALT増加※	U/L	>40-120	>120-200	>200-800	800<
T-Bil増加※	mg/dL	>1.3-1.95	>1.95-3.9	>3.9-13.0	13.0<
クレアチニン増加	mg/dl	(男)>1.2-1.8 (女)>0.9-1.35	(男)>1.8-3.6 (女)>1.35-2.7	(男)>3.6-7.2 (女)>2.7-5.4	(男)7.2< (女)5.4<
高カリウム血症	mEq/L	>5.0-5.5	>5.5-6.0	>6.0-7.0;入院を要する	7.0<;生命を脅かす
低カリウム血症	mEq/L	<3.5-3.0 ;症状がない	<3.5-3.0; 筋力低下、痙攣、 不整脈などの症状が出現	<3.0-2.5; 入院を要する	<2.5; 生命を脅かす
高カルシウム血症(補正值※)	mg/dL	>10.5-11.5	>11.5-12.5	>12.5-13.5;入院を要する	13.5<;生命を脅かす
低カルシウム血症(補正值※)	mg/dL	<8.5-8.0	<8.0-7.0	<7.0-6.0;入院を要する	<6.0;生命を脅かす

※血清アルブミン値が4未満の時に補正を行う。 補正カルシウム値(mg/dL) = 血清カルシウム値(mg/dL) + 4 - 血清アルブミン値(g/dL)

副作用項目	副作用の重症度		
	Grade1 (軽度)	Grade2 (中等度)	Grade3 (重度)
食欲不振	食欲は落ちたが食生活に変化なし	体重減少・栄養失調を伴わない摂取量減少、 経口栄養剤による補充が必要	顕著な体重減少or栄養失調を伴う 経管栄養/点滴加療を要する
悪心	吐き気あり、食生活は変化なし	吐き気あり、体重減少・栄養失調・脱水を伴わない 食事量の減少	吐き気あり、食事・水分が殆どとれない 経管栄養/点滴加療/入院を要する
嘔吐	治療を要さない	外来での点滴加療を要する;内科的治療を要する	経管栄養/点滴加療/入院を要する
口腔粘膜炎	症状がないor軽度の症状 食事の変更はない	経口摂取はできるが、痛み・潰瘍あり 食事の変更が必要	強い痛み 経口摂取できない
下痢	通常回数+3回以内の増加	通常回数+4-6回の増加	通常回数+7回以上の増加
下痢(ストマ)	ベースラインより排泄量の軽度増加	ベースラインより排泄量の中等度増加	ベースラインより排泄量の高度増加
便秘	不定期or間欠的な症状 下剤や食事の工夫が必要	定期的な下剤の使用、持続的な症状	下剤を使用しても便がでにくい
末梢神経障害	違和感がある	中等度の症状 身の回りのこと以外に影響あり	高度の症状 身の回りのことができない
手足症候群	痛みのない皮膚の腫れ、赤身	痛みのある皮膚の赤み・腫れ・水ぶくれ・出血・爪 の著しい変形や脱落	強い痛みを伴う皮膚のはがれ・水ぶくれ・出血・ ただれ・かさぶた
ざ瘡様皮疹	体表面積の<10%を占める赤み/膿 かゆみ・痛みの有無は問わない	体表面積の10-30%を占める赤み/膿 社会心理学的な影響を伴う 体表面積の>30%を占める赤み/膿で軽度の症状 の有無は問わない	体表面積の>30%を占める赤み/膿で中等度または 高度の症状を伴う 経口抗生薬による治療が必要
爪囲炎	爪の腫れ・赤み・はがれ	痛みを伴う爪の腫れ・赤み 内服治療が必要	外科的処置が必要 抗生薬の静脈内投与が必要